

展示の
視点①

巨大な湖から陸地が誕生するとき、
どのような図面や公文書が作成されたのか？

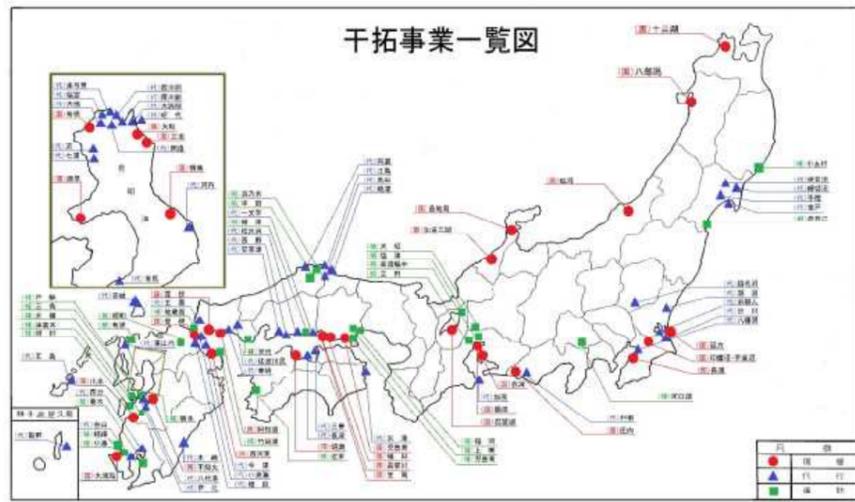
■かつて八郎潟は…

東西約12km・南北約27km、琵琶湖に次いで日本で2番目に大きい湖でした。八郎潟は、龍に姿を変えられた八郎太郎がすんでいるという伝説からその名がつけられた湖でしたが、平均水深3mと至って浅いことから、明治時代から度々干拓計画が立案されました。



「秋田領内測量図」(部分)
A290-259

■なぜ八郎潟は干拓されたのか…



八郎潟は国営干拓事業として昭和32年(1957)に工事が始まります。上の地図は昭和20年代に政府が計画した干拓候補地の一覧で、八郎潟に限らず、水深の浅い湖や湾はすべて干拓する計画だったことがわかります。地図からは、戦後ベビーブームによる人口増加で、食料が逼迫することを回避しようとした政府の意図が見えてきます。

展示の
視点②

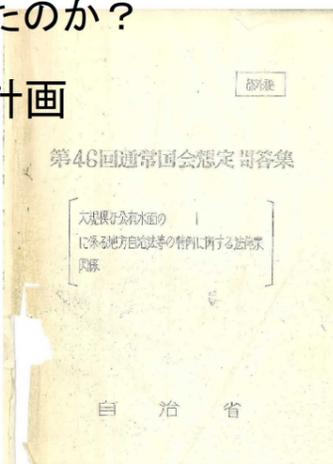
巨大な湖から陸地が誕生した…
そこになぜ一つの村が誕生したのか？

■たとえば東京湾

昭和時代、埋立地の帰属をめぐり、大田区・江東区・品川区・港区が争いました。現在でも、中央防波堤埋立地の帰属を巡って、大田区と江東区が争っています。八郎潟が陸地になるとき、周辺町村は土地争いを起こさなかったのでしょうか？

■前代未聞・空前絶後の計画

小畑勇二郎秋田県知事は、八郎潟の周辺町村が新しく誕生する中央干拓地を分割せずに、一つの自治体が治めるべきだという構想をもっていました。中央干拓地を機械農業の先進地にするには、一つの自治体が望ましいと考えたからです。さて、小畑知事が打った手とは？



展示の
視点③

秋田県公文書館と大潟村教育委員会が連携しての展示
公文書館前期展・後期展・大潟村会場展で列品資料が一部異なる

■秋田県公文書館の展示構成

- | | | | |
|-----|------------|-----|------------|
| 前期展 | ・八郎潟の原風景 | 後期展 | ・前期展ダイジェスト |
| | ・八郎潟干拓計画 | | ・干拓工事 |
| | ・干拓地を一つの村に | | ・村をつくる |
| | ・干拓に伴う工事 | | ・防潮水門 |
| | ・大地の完成 | | ・現在の大潟村 |

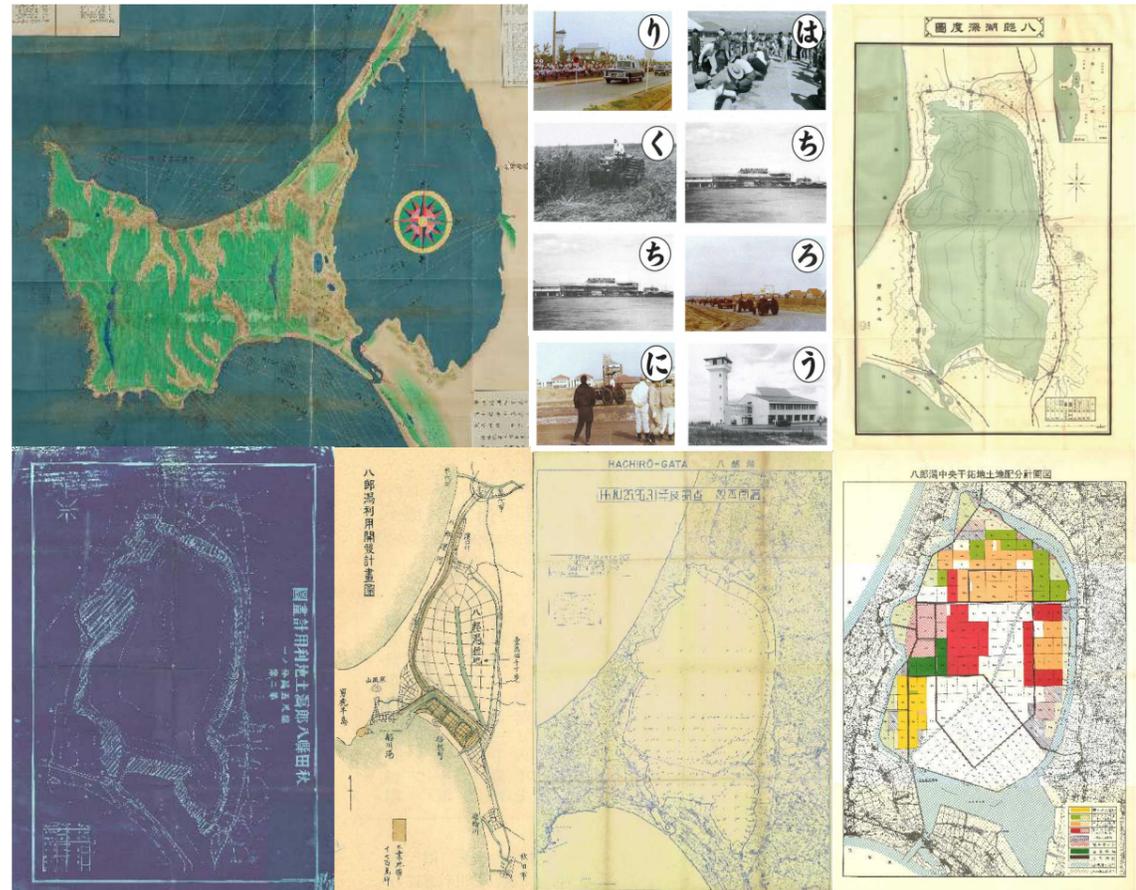
■干拓博物館の展示構成

- ・八郎潟の原風景
- * 公文書館会場では展示しない絵図多数あり
- ・干拓工事
- ・村をつくる
- * 公文書館会場では展示しない図面あり
- * 昭和31年～52年の干拓工事関連の県政映画を常時放映(映像合計1時間6分)

秋田県公文書館 連携展
大潟村教育委員会

記録資料にみる大地創造

—大潟村アーカイブズ・ギャラリー—



空前絶後の干拓事業を記録資料からたどる。

八郎潟を広大な大地に、そして一つの自治体に。

大潟村干拓博物館 会場

秋田県公文書館 会場

日時 令和7年8月1日(金)～12月26日(金)
開館時間 午前9時～午後4時30分
休館日 9月まで
毎月第2・第4火曜日(祝日の場合はその翌日)
10月から
毎週火曜日(祝日の場合はその翌日)
入館料 大人300円、小中高生 100円

日時 [前期展]8月21日(木)～9月28日(日)
[後期展]10月2日(木)～11月3日(月)
開展時間 午前10時～午後5時
休館日 毎週水曜日
観覧料 無料

〒010-0494
秋田県南秋田郡大潟村字西5丁目2番地
電話0185-22-4113 FAX0185-22-4115

〒010-0952
秋田市山王新町14-31
電話018(866)8301 FAX018(866)8303
E-Mail koubunshokan@pref.akita.lg.jp
http://www.pref.akita.lg.jp/pages/genre/kobunsho/

秋田県公文書館



秋田県公文書館
Webサイトはこちら



秋田県公文書館
公式Xはこちら

大潟村の干拓計画から村政確立に至る歴史年表

年月日		事項
文政8年	(1825)	渡部斧松、滝の頭を水源に八郎潟西南の原野約400㌔を開拓し〔渡部村〕を開村する
大正12年 (1923)	7月	農商務省可知貫一技師「秋田県八郎潟土地利用計画」をまとめるも関東大震災で焼失。震災前秋田県庁へ送っていた計画概要により再度作成し、翌年に発表する
昭和16年 (1941)		農地開発法により設立された〔農地開発営団〕が開発地の一つに八郎潟を選ぶ。仙台土木出張所金森誠之所長と農林省師岡政夫技師がそれぞれ干拓計画を発表する
昭和23年		農林省仙台農地事務所狩野徳太郎技師が「八郎潟国営事業計画書」を作成する
昭和27年 (1952)	7月1日	農林省、秋田県庁内に〔八郎潟調査干拓事務所〕を設置し、干拓地調査の実施や干拓調査協議会の設置等を行う
	8月28日	〔八郎潟干拓調査協議会〕（仙台農地事務局長・知事・県会議長・県会農地委員長・ほか有識者らで構成）可知案・金森案・師岡案・狩野案を検討する
昭和28年 (1953)	7月27日	〔八郎潟利用開発期成同盟会〕（会長:高橋昭和町長）結成。八郎潟周辺14か町村長・農協組合長・漁協組合長らが一体となり、八郎潟利用開発促進を決議する
	11月13日	〔八郎潟干拓調査事務所〕が秋田市亀の町新町に移転する
昭和29年 (1954)	4月7日	オランダのデルフト工科大学ヤンセン教授らが現地視察
	7月中	ヤンセン教授から「日本の干拓に関する所見」（通称:ヤンセンレポート）が農林省に届く
昭和30年	9月19日	県土地改良部に〔八郎潟干拓推進事務局〕（局長:嶋貫隆之助商工課長）が設置される
昭和31年 (1956)	6月21日	河野一郎農林大臣ら視察「漁業補償等の問題が解決すれば着工の支障はない」
	8月6日	一万田尚人大蔵大臣視察「有益な事業であるが、資金面で検討を要す」
昭和32年 (1957)	1月20日	昭和32年度予算に干拓工事費用5億6,520万円が計上される
	3月31日	ヤンセン案に基づいて検討された「八郎潟干拓事業計画書」が完成する
	5月1日	〔八郎潟干拓調査事務所〕が〔八郎潟干拓事業所〕に改組される
昭和33年 (1958)	4月4日	西部地先干拓地堤防工事が始まる
	6月16日	〔八郎潟干拓事業所〕が〔八郎潟干拓事務所〕に改組される
	8月20日	〔八郎潟干拓事業起工式〕（会場:秋田市山王体育館・男鹿市船越の干拓工事前線基地）が開かれる
昭和34年 (1959)	5月	中央干拓地・南部干拓地堤防工事が始まる
	6月	防潮水門工事が始まる
昭和35年 (1960)	4月1日	〔八郎潟干拓推進事務局〕が〔八郎潟干拓課〕に改組される
	6月25日	八郎潟干拓事業計画大臣決裁。総事業費223億5,000万円
昭和36年	3月31日	防潮水門の工事が完了する
昭和37年	9月2日	船越水道工事着手（昭和40年に完成）
昭和39年 (1964)	6月18日	衆議院本会議で「大規模な公有水面の埋立てに伴う村の設置に係る地方自治法等の特例に関する法律」が可決され、法律第106として公布施行される
	7月22日	県庁で中央干拓地新村の名称選考委員会が開かれ「大潟村」に決定する
	9月15日	中央干拓地の総合中心地予定地で〔八郎潟干陸・新村設置記念式典〕が開かれる
	10月1日	〔大潟村〕開庁。村役場の庁舎は県庁4階会議室に置かれる
昭和40年 (1965)	4月10日	大潟村役場、県自治会館に移転する
	5月27日	〔八郎潟新農村建設事業団法〕が法律第87号として公布施行される
	10月7日	新しく出来上がる干拓地に模範的な新農村を建設することを目的として〔八郎潟新農村建設事業団〕が設立される
昭和41年	11月10日	第1次入植者（58名）訓練所入所式

年月日	事項	
昭和42年 (1967)	5月10日	干拓地実験農場でヘリコプターによる米の直播きを実施
	6月27日	ヘリコプターで播いた米の種がカモに食べられ20%しか残っていないことが判明
	8月18日	カントリーエレベーター起工式
	9月28日	ネズミ退治のためイタチが放たれる
	10月27日	第1次入植者（56名）修了式
	11月14日	第2次入植者（86名）訓練所入所式
	11月25日	入植者の組織である〔大潟村新村建設協議会〕（会長:津島信男氏）が発足する
昭和43年 (1968)	3月28日	〔大潟村村政審議会設置規則〕制定。審議会は議会に代わる機能を果たす
	4月9日	第1次入植者・第2次訓練生による農場開き。トラクターによるパレード
	6月14日	大潟村役場庁舎が完成する
	6月28日	〔大潟村消防団〕が結成される
	9月1日	〔第1回村民運動会〕が開かれる
	10月28日	第2次入植者（86名）修了式
	11月1日	〔大潟小学校〕（児童52名）・〔大潟中学校〕（生徒16名）が開校する
	11月15日	第3次入植者（179名）訓練所入所式
昭和44年 (1969)	3月28日	大潟小学校で〔八郎潟国営工事完了式〕が挙行される
	6月2日	〔大潟電話局〕が開局する
	7月1日	村章が制定される
	7月22日	〔中央公民館〕完成
	8月2日	〔秋田農業博覧会〕開催（9月25日まで、入場者数約100万名）
	8月24日	昭和天皇行幸
	10月31日	第3次入植者（175名）修了式
	11月15日	第4次入植者（145名）訓練所入所式
昭和45年 (1970)	2月17日	〔米生産調整推進協議会〕結成、3月31日に減反面積が決まる
	9月29日	〔大潟村農業協同組合〕が設立される
	10月30日	第4次入植者（143名）修了式
昭和46年 (1971)	1月6日	東北経済連・東北自治連「空港整備政策」を提案。県の〔秋田空港問題懇談会〕の意見でも空港最適地として大潟村が盛り込まれる
	1月19日	大潟村新村建設協議会・大潟村農協、八郎潟新空港建設を反対する大会を開く
	2月1日	〔大潟郵便局〕が役場庁舎内に開設される
	4月8日	第4次入植者（143名）入村式・農場開き
昭和47年 (1972)	11月	〔大潟村墓地整備促進委員会〕が設立される
	12月	〔大潟幼稚園〕の園舎が完成する
昭和48年 (1973)	1月10日	〔大潟幼稚園〕の昭和48年度入園者の募集を行う
	8月22日	〔大潟土地改良区〕が設立される
	8月28日	〔大潟村墓地公園〕が完成する
昭和49年 (1974)	4月4日	第5次入植者（121名）訓練生入所式
	9月10日	〔村づくり意見発表会〕が行われる
	10月30日	第5次入植者（120名）修了式
	11月8日	県立農業短期大学で〔大潟村設置10周年記念式典〕が挙行される。参加者800名
昭和50年	11月4日	生活センター営業開始。食料品・電化製品・化粧品等を販売
昭和51年 (1976)	9月5日	初の住民による選挙が行われ、村長と村議員が選出される
	10月27日	〔八郎潟新農村建設事業団完工式〕が挙行される

* 『八郎潟新農村建設事業団史』（昭和51年）・『大潟村史』（平成26年）をもとに作成